第３学年 算数科学習指導案

日　時　7月11日（金）6校時

対　象　３年１組　32名

授業者　赤垣　由希子

1. 単元名 「あまりのあるわり算」（東京書籍）
2. 本時のテーマ 45分間の学びっぷり

1. 本時の授業
2. 目標

商や余りの意味に着目して考える活動を通して，問題場面に対応して余りを処理することが大切であることに気付き，問題に応じた商の処理の仕方を考えて説明することができる。

(2)展開　6/7

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動 | ・教師の働きかけ　 ◎評価　 ☆支援 |
| １ 既習内容との関連付け　　２ 問題の発見①ケーキが □こあります。１はこに ４こずつ ケーキを入れて，れいぞうこで ひやしておきます。　　　　　↓　　　　　　　　　　　　　　↓何はこできて，何こあまりますか。何はこ ひつようですか。３ 課題解決① 〇 既習内容であるの除法を用いた問題を作成し，式と答えを出し合う。 １２÷４＝３ ２０÷４＝５１６÷４＝４１７÷４＝４あまり１ ２２÷４＝５あまり２１５÷４＝３あまり３４ 問題の発見②全部のケーキを入れるには何はこ あればよいですか。５ めあての設定 あまりに注目して答えを考えよう。６ 課題解決②　２３÷４＝５あまり３ 　　　　　　　　　　　　　　　　　・あまりの３こも箱に入れたいから，もう１箱必要。  ・５＋１＝６　６はこ**〇〇〇****〇〇〇〇****〇〇〇〇****〇〇〇〇****〇〇〇〇****〇〇〇〇**７ 解決方法の比較８ まとめの共有計算の答えのままに答えられないときもある。９ 振り返り　〇 本時の学習を振り返るとともに，次時の学びを予想し学習ノートにまとめる。　 | ・ 乗法，除法を活用したゲームをする。・ 問題の続きを考え，これまでの既習内容である除法，余りある除法の問題が作成できることを確認する。・ 問題に応じて余りの処理が必要であることに気付かせるため，教科書の問題文に「冷蔵庫で冷やしておきます。」という文を加えて提示する。・ 作成した式は，余りのあるものとないものとに分けることで，余りを処理する必要がある場合であることに気付かせたい。・ 既習内容と結び付け，被除数の小さいものから並べ替えようとすることが予想される。授業後半で比較するために，どのような意図で並べたいと考えたのかを共有することに，ある程度の時間を費やすことも考えられる。・ 問題文を分けて提示することで，本時の学習課題 が余りの処理が必要な問題であることに焦点を絞る。「３課題解決①」で商の処理の仕方が変わることに気付き，子どもたちが学習を発展させていくことを期待したい。☆ 自分の考えを表現できずにいる児童に対して， 学習ノートに図をかく作業をしながら会話を通して支援していく。◎ 商や余りの意味に着目して，問題に応じた商の処理の仕方を説明することができている。【思考・判断・表現】学習ノート，つぶやき，発言・商をそのまま答えにしてよい場合と，問題によっては商に１を加えるかどうかについての話合いが深まるように支援をする。・振り返りでは３観点から振り返り，自分の学びの成長を記録する取組を試みている段階である。 |